

1990.7.11

(第3種郵便物認可)

「清浄」だけではだめ

▼水道法には「おいしい水を」とは書いてないです

「清浄」とは書いてありません。おいしい水が入っていないと、見た目にきれいならいいわけです。日本の水はみんなおいしいからわざわざ「おいしい水」と書く必要がなかったんです。それが、最近おいしい水が給水されるようになったり、清浄なだけでは駄目だと分かってきたんです。

英国なんか百年くらい前にそういう議論がありました。「清浄で、おいしい」と。上流で下水が入り、汚れてしまう水だから、そんな考えが起ったわけです。微生物利用の浄化の過程で更に丁寧に浄化します。米田は後から始まった中で、都市下水による汚れはなかったで、濾過の力で濁りをとる。浄化槽が開発されました。濁りがとれば平気で飲むわけです。日本ははじめから飲める水はきれいでした。戦後、米田式インストリ浄化法が主流になりましたが、米田式は水に漂う土の微粒子のほとんどは濾過して取り除いて、残ったものは何もしないんです。川に下水が入り、米田式はうまくいかなかったら、味が悪化する。薬をいれたいという薬品をいれ入れたら、味が悪化する。



「おいしい水を」とは書いてないです。おいしい水が入っていないと、見た目にきれいならいいわけです。日本の水はみんなおいしいからわざわざ「おいしい水」と書く必要がなかったんです。それが、最近おいしい水が給水されるようになったり、清浄なだけでは駄目だと分かってきたんです。

聞き手 小石勝俊編集委員 写真・塩入正夫記者

在日コリアン

初の東大講師

在日韓国人三世の安俊弘(アン・ジュンホン)さん(三)が大阪市天王寺区出身。写真1は先月、在日韓国人



立夫で既に二十四人(助手は除く)が採用されているが、待遇が日本人教員と同じ終身雇用(任期なし)としてを例目。

朝鮮人として初めて東京大学工学部原子工学科の専任講師になった。国立大学教員の門戸を外国人に開いた「外国人教員任用法」が施行されて九月八年。在日コリアンも全国の国公

「時代は確実に変化しています。在日に対する差別は残っているが、差別に対する感情的な反応を減らすだけでダメ。各分野で各人が業績を上げて勝負する時代になってきた」と研究者らしい分析も。

45年ぶりサハリンの土



旧樺太南部の渡瀬村(現ソ連サハリン州ムラビエボ)の引き揚げ者四十三人がこのほど、北海道稚内市のサハリンツアーで、戦後初めて懐かしの故郷を再訪した。団長を務めた石原三三朗さん(六)札幌市北

区、会社役員。写真1は紺べきの帯と襟袢に包まれた山は昔のまま。旧友たちと一緒に訪れることができ、懐かしさで胸がいっぱいになりました。と感激の場面。石原さんは生まれて間もなく、戦

スミズミマデ「心配り」学ンデマス

「アメリカの社長は自分の会社の便所掃除なんて絶対にしない。掃除リーダーシップ」という関係があるの。アメリカから日本にリーダーシップを勉強にきたハーバード大学大学院生のティーン・ウィリアムズさん(三)がオーストラリア生まれ。写真1は不思議な顔をした。



ティーン・ウィリアムズさんを教える専門家。その彼女が六月は経歴(神奈川県鎌倉市)に任職して日本のなり

「便所掃除」を美地体験。同社の鎌田秀三郎社長は便所掃除を通じて人材づくりを実践している。物社社長。はじめは青い目を白黒くさせていたウィリアムズさんだが、便所「かもね」と感

日本のリーダーシップ

なく年生で過行った。生。山だ。年。抱き。言葉。戦。倍強。自身。備に。隊の。事務。年。行。練。